毎日歌壇

水原紫苑 選

死の次に言葉がこわいさりさりと桃の産毛の優しい拒絶　鶴岡市　鳥井　景

△評▽「死の次に」こわいものなどあるはずがない、それをあえて言うのが詩であり、まさに「言葉」である。

他の星の人が地球に来ないのは移動手段が牛車だからだ　枚方市　久保　哲也

△評▽牛車だから来られないのか、それは残念という、この強烈な納得感は何だろう。

星図からはぐれた春の水甕はほほえみながら割れるのだった　東京　山野ゆかり

方向を知らされたゆえ仰ぎつつ並行に死ぬ老プラタナス　豊橋市　太田　貴大

生きていく理由にもなる　ただじっと孤独に耐えている鍾乳洞　名古屋市　よだか

水たまり踏み抜けるなら天国に行けそうでパスピエの足取り　千葉市　星野　珠青

誇るほど輝き持たぬシロツメは幼子の手で王冠となる　札幌市　橘　晃弘

蜂蜜の匙にあふるる金色のように午睡はしたたり落ちる　高島市　くらたか湖春

夏風にのせて飛ばしたぼくのゆめ　知らないところで咲きますように　旭川市　蓮　実

月光にて冷やせしシーツ幾枚も揃へて寝苦しき夜を迎ふ　甲府市　村田　一広

伊藤一彦 選

よこしまな道は通ってきていないこしあんのようにみずみずしい夜　国分寺市　青野　暦

△評▽下の句の感性豊かな表現がすばらしい。上の句の道に外れたことはしていないという自負とぴったりなのもさすがだ。

英語では何と言うのか米国の大統領のちゃぶ台返し　横浜市　豊田　迪子

△評▽英訳はもちろんあるが、「ちゃぶ台返し」の語で批判したところが鋭く確か。

水筒の残りを注げば夕暮れに喋りたそうな鳳仙花たち　東京　石川　真琴

亡くなった人の話を聞きながら何を食べるか決めかねている　川崎市　水　面

お祭りの片隅に寄り提灯の灯りを眺め少し待ってる　茅ケ崎市　戸川　香織

みずに棲むを疑わぬものその美しき流線形を浜にさらせり　東京　富見井高志

社会というリングの上で殴り合うタオルはまだまだ投げてくれない　東京　藤沢　静二

大楠は尺取り虫の全宇宙腕白坊主もう届かない　京都市　根来美知代

近隣の大農家には来ないのに父に赤紙貧農だったからか　行田市　永沼規美雄

誰の手が鍵盤を駆け抜けるのか震える大気に星は瞬く　狭山市　りんか

米川千嘉子 選

米売り場に「多子世帯用」の米ありてほっとして見る五キロ三袋　周南市　椋木　幸子

△評▽こういう気遣いのある販売の仕方もあるのか。それでも5キロが3袋のみ。気候の影響など米の心配は続きそうだ。

妻の磨る墨の香りが風になる昭和の書道部で出会ったふたり　春日市　伊藤　亮

△評▽パフォーマンスが話題になる昨今の書道部とは違う空気。上句が新鮮だ。

さりさりと林檎を剥きてまひるまの月の白さに近づけてゐる　大津市　碧乃　そら

戦争をせっかく知らぬ我らにはそのまま次に渡す役目が　久留米市　春日　登

この気持ちAIいかに解するか傍への人より人肌持たん　伊丹市　岡本　信子

米騒動尻目にグルメ健在で食なきガザの子の顔浮かぶ　尼崎市　小石　絹子

けだるさに目閉づれば懐古に沈む西瓜食むはらからの顔・かほ　春日市　林田　久子

魂の気配のありしが日の経ちて君の定位置虚しくなりぬ　大阪市　森川　慶子

首に手にタトゥーの若者すきとおる声でいのちを歌いあげたり　習志野市　太宰　明子

たいていの正しい答えは知っている古希の老女もネイルに通う　姫路市　おのえ双葉

加藤治郎 選

すこしだけ眼鏡のつるを咥えてる背景色は僕が塗るから　川崎市　新井　将

△評▽愛らしいしぐさである。きみはスケッチを進めている。背景は僕が塗ってあげる。ふたりの共作を想像してみた。

予言者の水晶玉の中にいるボクを見ている僕もまぼろし　新座市　睦月くらげ

△評▽もう一人の自分を見ている。そんなとき自分の存在が不確かに思えてくる。

「LOVE♡」に嘘はなきかとオムレツの余白がじっとわれを見ており　新宮市　小野小乃々

ありがとうございましたを発しない店員さんの経典がある　川崎市　椚田　宏朗

八月が溶け出しているそれぞれの花の重みのある花束を　平塚市　芝澤　樹

対岸に見えたのですかポチきみの家族ではない頃のわたしが　大津市　世田　夏雪

三枚もつかい「釣」「り」「具」と言うときのような速度で仕事に向かう　東京　石井　しい

地球から考えてみる　▽溶けてゆく　▽変であるとかないとかみんな　東京　稲山　博司

ホームとは外に出られぬ籠のこと電話の向こう繰り言続く　奈良市　大津　花遊

味噌汁を作って食うしかできないと画面の向こうで人が死ぬのに　東京　巻田　柚野

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます